

地域の底力を信じ、市民一人一人をローカルヒーローに!

NPOと市民をつなぐ機関誌

特集

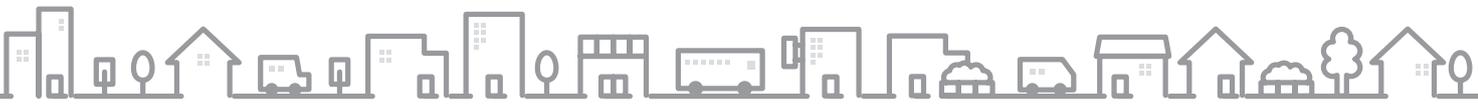
守れ! 子どもの 心♡権利♡いのち

まはる

- まんまるニュース
- Myストーリー ながの協働ねっと事務局長 亀垣嘉明さん
- まんまるの新NPO紹介 NPO法人MHOKエムホック
- お宝ざくざく地域を掘り起こせ! 七二会・第三地区
- まんまるイベントスケジュール



2019
秋号
No.22



特集 守れ！子どもの 心♡権利♡いのち



子どもが虐待の被害者となる事件が報道されるたび、胸が痛む人は多いのではないのでしょうか？県の平成29年度実績報告では、子どもの人口が減少する一方で、児童相談所への相談受付件数は増えています。中でも児童虐待は2048件と前年度比7.3%増。児童福祉法では「虐待ではないか」と気づいた国民が関係機関へ通告する義務が明記されています。そうした認識が広がったこと、そして孤立した子育てが相談件数増加の要因だと分析されています。



昨年10月、ポップアップ知恵出し会議で子ども支援団体や個人が集まって課題を抽出

事件が起きるたび「なぜそんなことに？」と誰もが思います。離婚や貧困、虐待の連鎖など、現代社会が抱える複合的な問題が見え隠れします。虐待してしまうのは母親が圧倒的に多く、孤立し追い込まれてもどこに助けを求めたら良いのかSOSを出せないまま、子どもが犠牲となってしまう。

そんな中、「見て見ぬふりはできない！」と行動する人たちがいます。その活動から、私たちができることを考えます。

市内の児童養護施設には、里親支援相談員が設置され、現在4人がその役割を担っています。その一人、松代福祉寮の玉井秀樹さんに聞きました。

「実は、長野県は里親が少ないんです」と玉井さん。それは必ずしも悪いことではなく、戦争中、孤児が多く疎開してきていたことから、児童養護施設の数が他県に比べて多いことも要因の一つだそうです。しかし、児童養護施設に入所する被虐待児が増えていることもあり、最近では国の方針でもり家庭に近い温かい環境で子どもたちが育つように、施設のグループホーム化と里親が推進されています。

平成28年度のデータでは、長野県の里親登録数は11409人、実際の委託数は4038件。「私里親やっていきます」と大きな声で言えないことから、その存在は広く一般には知られていません。玉井さん自身も相談員になるまでは里親制度の詳細まで知る機会がなかったと言います。そんな中、里親について知りたいたい人が気軽に話を聞ける場が必要と、東京の世田谷区で「里親カフェ」が生まれました。施設を出て、コーヒーストップなどで少人数で里親から「なぜ里親になったの？」「なってみてどう？」など話を聞けます。里親カフェは、単純に里

親を増やすだけでなく、里親や子どもたちの見方を増やして、応援してくれる人を増やすことも目的としています。周囲の理解が進むことも大切な視点です。

「長野でもぜひ」と昨年からは温めていた企画を相談員仲間と一緒に実現した玉井さん、9月11日に長野市松代で、10月4日に飯山市、この後千曲市・再び長野市と今年度4回開催します。「ぜひ気軽に来てもらいたい」とのことです。里親になるなら別として、まずは参加してみませんか？ 子どもたちのためにできる一歩かもしれない。

里親について知る。 「里親カフェ」 松代福祉寮 里親支援相談員 玉井秀樹さん



児童虐待防止のオレンジリボンを手に語る玉井さん

助けるチャンスは必ずある。 みんな育てたいと思っっている。

ながの子どもを虐待から守る会
事務局長 村瀬和子さん

「ながの子どもを虐待から守る会」は平成9年に一般市民と医師などの専門家により発足しました。発足メンバーで現在事務局長を務める村瀬和子さんにお話をうかがいました。

当時は児童虐待が社会問題化し児童虐待防止法が発効され、行政も解決のためには民間の力が必要との認識が高まっていました。

村瀬さん自身、児童相談所職員として、体験したこのない悲惨な状況や当事者との壮絶なやり取りに疲弊したそうです。児童虐待は、密室で起きており、周

りが現場を見ていないことが問題を一層難しくしています。会の主な活動は、子育てに悩む母親と直接相談する「お母さんの心の相談室」、子育て中のママたちにグループカウンセリングを行う「ほっとひといきママの会」、専門職向けに研修会などを行う広報啓発活動です。特に人材育成の重要性を掲げ保育士に対する専門研修には注力しています。活動を通じて、母親たちからは家族などに対するいらだちの声は聞かれても、我が子に対する憎しみは聞かれないとのこと

です。



長野市若里の長野医師会館内にある事務局の前で

村瀬さんは「虐待による子どもの死亡者数は発足当時も今も変わらないのが残念です。育児疲れから情緒不安定や被害妄想を引き起こ

し、孤立し、虐待におよんでしまう母親は決して特別な人ではありません。困ったときに相談し助けを求める相手がいないことが問題なのです。地域や社会は当事者に対して決して非難の目で見ることなく、声をかけて気付けてあげることが重要です」と強く語っていました。

こころの居場所はここにもあるよ。いつでも話していいんだよ。

チャイルドラインながの事務局
美谷島恵子さん

チャイルドラインは、夕方4時から9時までいつでもかけられる、18歳までの子ども専用無料電話です。1970年代に北欧で子どものためのホットライン開設が始まり、日本では1998年に世田谷で試験

的に実施した2週間の24時間電話が、チャイルドラインの始まりです。県内では、2004年に「チャイルドラインながの」が開設され、現在は長野・諏訪・佐久・上田の4か所にあります。年間約20万件、1日平均542件の相談を受けるのは、研修を受けた全国約2,000人のボランティア。電話をかけてくるのは、中学卒業し18歳の男子が一番多く、親にも友達にも相談できない子の子の心の居場所にもなっています。今は相談の形態もさまざまで、文章会話であるオンラインチャットでの相談も始めています。

事務局の美谷島恵子さんの話によると、近年、教育虐待と呼ばれる親からの過剰な期待による精神的なストレスが増えています。その中で、「自分が我慢すればいい。そうすればお父さんやお母さんは怒らないから」と話す子が多いそうです。

子どもたちの世界は狭く、特に今はつながっている大人が少ないのが現状です。話せば楽になるのは大人も子どもも一緒。だからこそ、美谷島さんは「チャイルドラインは、言っていないだよ、いつでも聴くよ」という気持ちでいつもいます。自分たちのやっていることで子どもたちを救えるとは思っていませんが、勇気を出してくれたら嬉しい」と話します。

最後に、「大人は子どもたちに、大好きだよというオーラを出してあげる。子どもの変化に気づき、安心感を与えることが大人の大切な役目だと思います」という美谷島さんの言葉が印象的でした。



子どものために、いちばんいいことはなんだろうを第一に。

NPO 法人子ども・家庭支援センターHUG

副理事長 山口利幸さん



NPO 法人子ども・家庭支援センターHUGは、平成26年に法人化され「離婚前後の相談」「相談内容に応じて専門機関につなげる」「面会交流の促進」を主な活動としています。HUGという名称は、親子の絆と、連れ去りを禁止した国際法ハーグ条約から付けられました。

県内3ヶ所で毎月3回以上無料相談会を実施し、過去2年間で200件以上の相談を受けつけました。山口さんは「子どもや親の心に寄り添いながら相談を受けています。誰に相談したらいいのかわからないという声も多く、人間関係の希薄さが経済・家庭の貧困につながっているのでは」と

指摘します。現在、国内では約23万組が離婚しており、その6割に未成年の子どもがいます。また、ひとり親家庭の子どもの貧困率は50%を超え、教育の格差や子どもたちの精神的なストレスなど深刻な問題となっています。

児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）には「子どもに関することが行われる時は、その子どもにとって最もよいことを第一に考えます」という原則があります。

「子どもはひとりの人間。そのことを忘れずに、成長の過程で親や教育機関、周りの人が向き合っていかななくてはいいけない。また、大人社会の影響を大きく受けるのは子どもたちです。単独親権を始めとした社会制度の問題点を少しでも解決して次世代に繋ぐ、それが今の大人の使命ではないか」と話す山口さんの想いに、自分は何かができるのかを問い直しました。

SOSをキャッチする。指導ではなく支援で。

NPO 法人子ども・人権・エンパワメント^{キャップ}CAP ながの
代表 矢島宏美さん



子どもだけでなく取り巻く大人たちへ「子どもへの暴力防止教育II CAP」を実践して人権を守ろうと活動している団体「NPO 法人子ども・人権・エンパワメントCAP ながの」の代表矢島宏美さんにお話を伺いました。

育プログラムを提供しています。矢島さんは20年前にCAPを長野市に導入し、その後NPOを設立しました。今はCAPの東日本組織J-CAPT Aのトレーナーも務めており、県内だけでなく東北・北海道まで忙しく飛び回っています。

主な活動は、県内の保育園、幼稚園、小中学校、高校、福祉施設や校長会などからの要請を受けて、子ども、保護者、教職員と人権意識を高めるためのワークショップを行っています。昨年度は約160件、参加者は子ども大人を含め6万人を超えています。中には5年続けて実施している高校もあります。

子どもたちは、しぐさや言葉で「小さなSOS」を必ず発しています。それを見逃さないようまわりの大人たちが学ぶことで、学校―家庭―地域が繋がりがり、安心の場がつけられることを目標にしています。子どもたちには「諦めないでSOSを発すること」、大人たちには「SOSをキャッチして正面を向いて

話を聞くこと」を訴えています。

今年新たな企画でワークショップのカフェ版「CAP公開おとなワークショップ」を開催しました。今後も各地でこの輪を広げていきたいと意欲的です。

取材を通じて、児童虐待はどこにでも起こりうる身近な問題であること、私たちがこの問題を知り関心を持つことが大切だと感じました。そして、わずかでもSOSに気付いたら誰かに打ち明けよう。その誰かは5人の支援者のように近くにいるのだと知ることができました。

最後に、長野県の未来を担う子どもの支援に関する条例前文の1部を紹介します。（抜粋）

「子どもは未来の宝であり、一人一人がかげがえのない存在である。子どもは、一人の人間として、その命や人格が大切にされ、その人権が守られなければならない。大人は、子どもの力を信じ、支えていく必要がある。」



大岡で親子山遊び 体験しよう！

11月9日(土)大岡地区で「親子1日山村留学体験」が開かれます。市街地の親子15組(小学3年生まで)を大岡に招いて、いっしょに山遊びを体験します。これに先立ち8月10日、スタッフによる事前研修会が村内であ



り、主催団体の「Oooka森の学び舎」、ボランティア参加の長野大、長野県立大の学生など12名が参加しました。イベントのねらい、山遊びの注意点、大岡の山の素晴らしさを実感してもらえらる工夫などを確認しながら実際の体験コースを歩きまわした。研修とはいえ、山歩きをしながら茎を切った笛を鳴らしたり竹細工に感心したり、スタッフ自身が楽しんでいました。

大岡地区は中山間地に位置し高齢化や人口減少などの問題をかかえています。特に子どもの減少に歯止めをかけようと「二日遠足の受け入れ」などの取り組みもしています。

主催団体の市河典子さんは「この機会に大岡を知ってもらい、親子で自然の楽しさ面白さを感じてほしい」と話します。

11月9日は、当センターの企画「まちむら交流会」と協働で開催します。落ち葉遊び、竹細工、火をおこしての焼き芋などを予定していますので、大岡の秋の魅力を親子で、五感で、体験してみませんか。



「市民協働サポートセンター」つて何をしているところ？」とよく聞かれます。「どういうところ



筆文字を書いてみよう！

るか関心をもつてほしい」という想いから生まれたこの講座。ファイナンシャルプランナーとして働く傍ら、筆文字で個展も開いている込山哲也さんを講師にお迎えして、8月24日(土)に市民協働サポートセンターで開催しました。

筆の常識にとらわれずに思い切りよく書くことに、最初は戸惑っていた参加者も、次第に楽しくなり、時にうまく書けない自分に苛立つたりする場面も。「自分も今まで1,000枚以上は練習した。うまくいかなくて当たり前だし、うまく書く必要もない。焦らずに、気持ちをおこめて、太い線と細い線のメリハリを大事に」と込山さんからアドバイスをうけながら、筆を握る姿は真剣そのものでした。

終了後、「楽しかった」「自分の仕事や年賀



状にも活かしたい」と話しました。

後半参加者は、スタッフがお願いした講座の看板や掲示物をその場でたくさん書いてくれました。また、この講座に参加して、更にセンターのことも興味深く聞いてくれる人もいました。こうしたみなさんの「参加」が、長野の活力になるとを信じ、これからも企画していきます。お楽しみに！

#10

My
ストーリーながの協働ねっと
事務局長 亀垣嘉明さん

「亀さん、亀さん」と親しまれている亀垣嘉明さんは愛知県出身。長野市の自宅で妻と夏野菜の収穫に忙しい日々を送っています。

東京の会社に就職し電気技師として、残業、出張はあたりまえ、徹夜あり泊まり込みありの生活の中、大型工事の受注で長野市に長期出張することに。「東京から特急あさまの最終で初めて長野に降りたものの、駅前はしーんとして真つ暗。唯一開いていたモスバーガーで一人さみしく深夜の晩ご飯」忘れられない思い出のひとつ。

32歳のときに突然脱サラして、なんと農家をめざし八千穂村（現佐久穂町）で農業研修に入ります。3年間の修行を経て独立して結婚もしました。その後長野市にある妻の実家に入り9年になります。

農業の傍ら、NPO法人Happy Spot Clubに参加し初めてNPOに触れました。「何かを目指して活動し

ている人を応援することが好きなんです。僕はこだわらない性格なので、壁に当たっても、しゃーないものはしゃーない」といつも適当に割り切っています。

昨年には新たに「ながの電気クラブ」を立ち上げ電気好きのコミュニティづくりを始めました。「農業もエンジニアも原理は、ものづくりなのでおもしろい。一人ひとりが生き生きと活躍できる場を小さくても作っていきたい。また作る応援をしていきたい」と日焼けした顔にやさしいまなざしで話していました。

プロフィール
長野市朝陽地区在住、52歳。

団体情報

ながの協働ねっと
〒380-0835 長野市新田町 1485-1 もんぜんぶら座 3階
TEL 026-223-0051

NPO法人MHOKエムホック

まんまるの!
新 NPO紹介

2019年5月9日に設立。長野市に住む子どもたちに郷土の歴史・魅力を伝え、子どもたちが将来戻ってきたいふるさとにすることを目的に活動しています。

10月には、川中島の合戦にゆかりのある場所をめぐるウォーキングイベントを近隣地域や企業と協力して開催予定です。理事長の三輪一幸さんは、「地元に住む親子にはぜひ参加してほしい」「高校生には地元を学ぶところからボランティアに関わってほしい」と呼び掛けています。

NPO法人MHOKエムホック
TEL:090-3145-8770
メール mhok2019@gmail.com



川中島平の歴史を考えるウォーキングの様子

2千株のあじさいを 次世代へ 七二会再発見 ワークショップ

7月20日、七二会地区で「七二会再発見ワークショップ」が開催されました。主催したのは、季刊七二会編集委員。昨年度県の「まちむら寄り添いファシリテーター養成講座」受講生のスミス陽子さんが中心となって立ち上げ、七二会の魅力を伝える情報誌を創刊しました。



小径の入り口から見た風景

施設横の沢に沿って植えられた。その数、20種類2千株、訪れる人を癒してきました。以前は地域をあげて「あじさいまつり」を開催。振る舞いや太鼓の演奏などもあり、多くの人が訪れたと言います。歩いてみると、急峻な小径には覆いかぶさるようにあじさいが咲き乱れています。登り切った来た道を振り返れば、遠くの間々がたなびく雲と折り重なるように見え、美しい一言。

後半は意見交換。せっかくの七二会のお宝をこのまま眠らせず、どう引き継いでいくかを話し合い、「整備に地域外の人に関われる仕掛けを」などのアイデアが出されました。

お宝 ザクザク 地域を 掘りおこせ!



権堂町など繁華街を擁する第三地区の総合防災訓練が9月4日(水) 鍋谷田小学校で行われました。児童生徒220人と地域住民ら併せて約400人が参加しました。

これまでの訓練は地区内13町それぞれの自主性に任されていますが、初めて合同で行うこととし、地域の避難場所である鍋谷田小学校に協力をお願いしたところ、学校側からもぜひ合同での申し出があり住民自治協議会と小学校の合同主催になりました。

授業中、地震発生時の合図とともに児童全員が体育館へ避難。仮設の部



地域住民と小学校が 合同防災訓練!

第三地区

屋やトイレが設置され、救急救命訓練が始まり体育館は避難所に早変わり。教室では煙を充満させた煙避難訓練が行われ消防士からの指示に従い児童たちは緊張気味。校庭では住民らによる豚汁などの炊出しが行われ「結構おいしい」「大根が固い」などとほっと一息。

主催者の住民自治協議会事務局長、朝倉信さんは「学校と住民が一体で訓練することで避難所の再確認ができた。一層の防災力向上につながれば」と話していました。



市民協働サポートセンター スケジュール

2019年10月▶12月



タイトル	日時	会場 / 費用	内容
NPO初歩講座 きほんのき 「NPOってなあに？」	10月30日(土) 12月11日(水) 13:30-16:00	市民協働サポートセンター 300円 定員:10人	NPOについて知りたい、法人を設立したいという人もまずはこの講座から始めましょう。NPOの言葉の意味から市内NPO法人の活動紹介まで。お気軽にご参加ください。
NPOステップアップ講座 ×長野県地域福祉コーディネーター総合研修 「地域の未来は協働でつくる。」	10月24日(木) 13:30-17:00	もんぜんぶら座 304会議室 1人500円 定員:60人 対象:市民活動団体 住民自治協議会・行政・企業・ 社会福祉協議会ほか	今や、地域の課題は地域だけでも行政だけでもNPOだけでも解決できない。地域の未来をセクターを超えて協働しながら作って行くための考え方を学びます。今年度まんまるイチョン企画!この機会をお見逃しなく。 講師:川北秀人さん (IHOOE [人と組織と地球のための国際研究所]) 共催:長野県社会福祉協議会・長野県NPOセンター・ながの協働ねっと
助成金プログラム説明会 &助成金活用セミナー	10月24日(木) 18:00-20:30	もんぜんぶら座 304会議室 無料 定員:50人 対象:市民活動団体 住民自治協議会	NPOや地域活動に必要な資金のひとつ助成金。その助成金をする側にも思いがあります。その思いを聞き、これからの申請に活かしましょう。さらに、さまざまな助成金の審査をしている講師からも、助成金を最大限に活かす方法についてお話しいただきます。 助成金説明・協賛:NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド 講師:川北秀人さん (IHOOE [人と組織と地球のための国際研究所]) 共催:長野県NPOセンター・ながのこどもの城いきいきプロジェクト
NPOステップアップ講座 「イベント企画のいろは」 ×NPOカフェまんまる 「イベントアーズミーティング」	12月13日(金) 午後(予定)	もんぜんぶら座 300円 定員?人 対象:NPO・地区で イベントを企画して いる団体・個人など	イベントと一口に言ってもいろいろあります。そもそもイベントそのものは目的ではなく、ミッション達成のための一つの手法にすぎません。その企画をするときに大切なことは?他の団体はどんなふう工夫している?お互いの困りごと共有も含めて、講師と共に考えます。 講師:ファシリテーションラボ信州 代表 河合宗寛さん
NPOカフェ まんまる NPOカフェまんまる ×水島紙店 「紙袋ワークショップ」	10月12日(土) 13:30-16:00	もんぜんぶら座 701会議室 無料 定員:15人 対象:関心のある方・親子	環境問題を学びながら、世界に1つしかないオリジナルの紙袋を作ってみませんか。いろんな紙を使って絵を描いたりデコレーションをしたりと、楽しい紙袋工作を、紙卸の老舗水島紙店さんと共同で開催します。 また、講師にながの環境パートナーシップ会議レジ袋使用削減チームの渡辺ヒデ子さんをお迎えし、環境問題を考えます。
NPOカフェ まんまる NPOカフェまんまる 「みんな 広報どうしてる？」	11月2日(土)	もんぜんぶら座 市民協働サポートセンター 無料 定員:10人	紙媒体やSNS、マスメディアなど、今や広報ツールは多岐に渡っています。効果的な広報とは何なのか、みんなどんな広報をしているのか情報交換会です。Mam's styleさんと共催です。
特別予告			
NPOステップアップ講座 コミュニティマネジメントいろはのろ	1月18日(土) 15:00-18:00	もんぜんぶら座 304会議室 参加費:1団体1000円 (4人まで)	講師:NPO法人CRファクトリー 呉哲煥さん 1月に開催し、好評を博したCRファクトリーのコミュニティマネジメントの講座。今回は基礎編でした。今回はそこからさらに進めて進化・深化編として開催します。前回のおさらいも交えてやりますので、初めての方も勇気を出して!!ご参加ください。どうしても基礎編から!という方は、午前中に佐久市市民活動サポートセンターにて開催予定。呉さんと一緒に佐久→長野市と移動しましょう!!



はココに! 機関誌まんまる設置場所募集!!

アルテリアベーカリー

セントラルスクエアから善光寺に向かう途中、甘い香りが多くの人の足を止めるメロンパン専門店です。季節に合わせてさまざまな限定メロンパンや5~6種類程のパイを販売しています。これからのオススメはメイプルメロンパンとメイプルピーカンナッツデニッシュなどだそうです!!メロンパンを購入した人がくつろげるようにカフェスペースもあります!その入口の立った左手、かわいいクマさんの隣にまんまるは置いてあります。

住所:〒380-0832 長野市東後町2

営業時間 朝7:00~20:00 カフェ:ラストオーダー19:00 定休日 なし



編集後記

発行/市民協働サポートセンター まんまる

TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052

〒380-0835 長野市新田町 1485-1 もんぜんぶら座 3F

e-mail: npo@nagano-shimin.net

ホームページ: http://nagano-shimin.net/

